

本時の授業デザイン

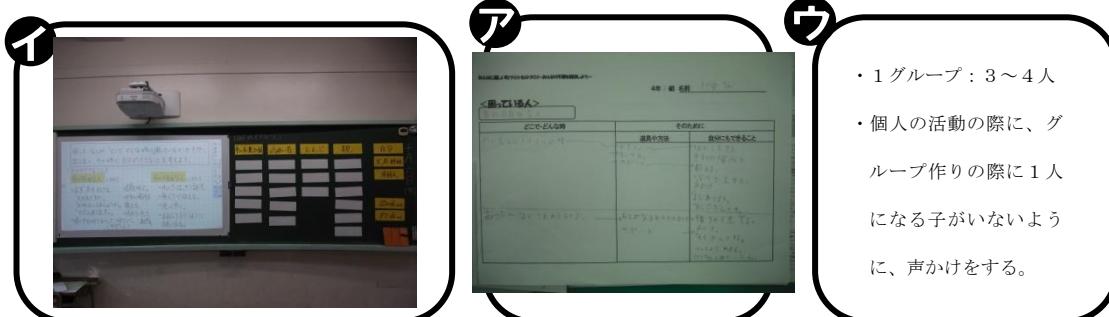
本時の目標

○困っている人が、どこでどんな時に困っているかを予想し、出し合い、その時に自分ができることを考える。

評価

- 困っている人が、どこでどんな時に困っているかを予想し、出し合い、その時に自分ができることを考えることができたか。

板書計画 / 学習シート計画 / 留意点



学習の流れ

前時までの学習を生かし、目や耳の不自由な人のほかに、自分の周りで困っている人はどんな人がいるか、出し合う。

T:目や耳の不自由な人のほかにも、みんなの周りにはどんな困っている人がいますか。

C:高齢者 C:車いすに乗っている人 C:妊婦さん C:お母さん C:自分

困っている人は、どこで、どんな時に困っているか予想し、その時に自分ができることを考えよう。

個人で「どこで、どんな時に困っているか」を予想し、その時に自分ができることを考える。

T:困っている人一項目ごとに、「どこでどんな時に困っているか」を予想し、その時に自分ができることは何かを考えよう。書ける項目からでいいよ。

◇ 自分が書けそうな項目から書くようとする。

書けた項目をもとに、共有するためのグループを設定する。

◇ 1グループ3～4人になるようにグループを設定する。

グループになり、困っている人一項目ごとに、予想やそのために自分ができることを出し合う。

T:グループで自分が考えたことを一人一人出し合いましょう。

◇ 一つの項目をじっくり考え合うことをねらいとする。

◇ 特に自分ができることは何かを考えることが重要であることを指導する。

◇ グループの話し合いで出た自分にできることを短冊に書く。

C:高齢者は、電車で座れないと困る。だから、優先席がある。そんな時自分は、優先席でなくても、「どうぞ、座ってください。」と言って、席を譲る。

C:お母さんは買い物の時たくさん荷物を持っていて大変そう。そんな時自分は、「半分持つよ。」と自分から言って、荷物持ちを分担する。

グループごとに、出し合った自分ができることを、全体に発表し、共有する。

T:グループで出し合ったことを全体で共有しましょう。

もっと困っていることがあるのではないか、学校に来た時に困ることがあるのではないかということを予想し、次時の学習の見通しを持つ。

T:この中で、実際に体験してみないとわからないことがありますね。どれを体験しますか。

C:車いす

